

日本歯科医学会

第115回臨時評議員会 議事録

日時 令和7年6月6日（金）

日本歯科医学会第 115 回臨時評議員会議事録

- 日 時 令和 7 年 6 月 6 日 (金)
午後 2 時 00 分開会、同 3 時 10 分閉会
- 場 所 東京都千代田区九段北四丁目 1 番 20 号
歯科医師会館 801・802 会議室
オンライン (Zoom 開催)
- 出席者 評議員 歯科基礎医学会 築瀬武史 外 61 名
役 員 学会会長 住友雅人 外 30 名

○会議の成立

○議長 (築瀬武史君) 大変お待たせいたしました。定刻になりましたので、会議を始めさせていただきます。

評議員の先生方、お忙しいところご参集いただきまして、まことにありがとうございます。

今回の第 115 回臨時評議員会の氏名点呼は、日本歯科医学会規程第 31 条の準用規定により、公益社団法人日本歯科医師会代議員会議事規程第 3 条、「開議の時刻にいたるときは、議長その席につき出席代議員の氏名を点呼する。ただし、議長の指示により、事務局に代行させること、または事務局による出席の受付をもって、代えることができる」に基づき、事務局による出席の受付をもって代えたいと存じます。

本日はオンラインによる開催につき、Zoom 会議室への入室をもって受け付けしたものとみなします。それでは、事務局より出席の受け付けを行った人数の報告をお願いいたします。

○事務局 議長に報告いたします。評議員総数 68 名中、出席評議員 55 名、欠席評議員 13 名、以上でございます。(※最終的な評議員出席者は 62 名)

○議長 (築瀬武史君) ありがとうございます。ただいま事務局より報告されたとおり、評議員総数 68 名、出席評議員 55 名、欠席評議員 13 名でございます。したがって、日本歯科医学会規程第 15 条により、本評議員会は成立いたしました。

ただいまより第 115 回臨時評議員会を開会いたします。

また、本日、予備評議員の先生がご出席されておられます。お名前を読み上げます。21番、朝田芳信評議員、38番、菅野亜紀評議員、45番、島田淳評議員、64番、鈴木邦亮評議員、以上の方々は事前に通知があり、事務手続が済んでおりますことをご報告申し上げます。

○開会の辞

○議長（築瀬武史君） それでは、日程に従いまして、「日程 1. 開会の辞」を川口副会長にお願いいたします。

○川口副会長 本日はお忙しい中、日本歯科医学会第 115 回臨時評議員会にご参加いただきましてありがとうございます。

本日は、これからの日本歯科医学会のことを決めます日本歯科医学会役員（学会会長）選任に関する議案がございます。慎重な審議をどうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、これから開催といたします。

以上です。

○議長（築瀬武史君） ありがとうございます。

○議事録署名人の指名

○議長（築瀬武史君） それでは、「日程 2. 議事録署名人の指名」ですが、議長より指名させていただきます。9番、池邊哲郎評議員、67番、江里能成評議員、以上 2 名の評議員の先生方をお願いいたします。

（「はい」の声あり）

○議長（築瀬武史君） ありがとうございます。

○物故会員に対する黙祷

○議長（築瀬武史君） 続きまして、「日程 3. 物故会員に対する黙祷」に移りたいと存じます。

それでは、元日本歯科医学会理事、恒石定男先生を始めとする物故されました会員の先生方に対し弔意を示し、黙祷を捧げたいと存じます。

Zoom でご参加の先生におかれましても、可能でしたらその場でご起立をいただければ幸いに存じます。

それでは、ご冥福をお祈りし、黙祷を捧げます。

黙祷。

ありがとうございました。お直りくださいませ。

○挨拶

○議長（築瀬武史君） 引き続き「日程4. 挨拶」に入ります。

初めに、住友雅人会長、ご挨拶をお願いいたします。

○住友会長 日本歯科医学会会長、住友雅人でございます。よろしく申し上げます。

私は、平成25年（2013年）1月25日の第89回評議員会での会長選挙で当選が決まり、同年8月6日開催の第90回臨時評議員会から本日の26番目に書いてございます第115回臨時評議員会まで、日本歯科医学会会長として26回の評議員会を開催させていただきました。6期、12年の長きにわたって会長職を継続させていただいた、これまでのすべての評議員の方々に厚く御礼申し上げます。

本日の議事で次の会長が決定され、7月1日から新執行部が始動します。日本歯科医師会も、高橋英登会長、2期目の新執行部が6月13日から始まります。引き続き日本歯科医学会へのご協力をお願いし、学会会長の挨拶を終わりといたします。ありがとうございました。

○議長（築瀬武史君） ありがとうございました。

次に、日本歯科医師会会長、高橋英登先生にご挨拶をいただきたいと存じます。それでは、高橋会長、ご挨拶をお願い申し上げます。

○高橋日本歯科医師会会長 日本歯科医師会、高橋でございます。申しわけありません、着座をさせていただきます。

まず、臨時評議員会にお招きを賜ったことを心より感謝申し上げます。また、平素、日本歯科医師会諸活動に先生方のお力添え、本当に心より、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

今、住友会長のお話でございました。私はまだ1期終わっていないところでございますけれども、私の日本歯科医師会会長就任の時点での思いは、日本歯科医学会としっかりと連携をして、日本歯科医師会も学術団体なんだから、日本歯科医師会、その学術団体を後ろから支えていただく、基礎をつくっていただく先生方の組織と一緒に進めていくのが私の最初のお願いでございました。それは着々と進んではきておりますけれども、ま

だまだ途上でございます。もっともっと連携を深めて、これは会員が安心して診療ができる組織をつくる、体制をつくる、それが我々の仕事でございます。その後ろ盾には、日本歯科医学会の存在がなくてはならない、これはもう自明の理でございます。そのためにも、もっともっと連携をしっかりと深めていこうと思っております。

今日、住友会長のご挨拶が短かった分、私が長しゃべりをしようかなと思っっているわけではないんですけれども、ちょっと資料を。私、今申し上げたように、我々の今やっている、日本歯科医師会がやっていることを、今日の評議員の68人の先生方にぜひご認識をいただきたい、ご了解をいただきたい、その思いでございます。全く別の組織ではないんです。これは一つの目標に向かって、いろいろなアプローチの仕方は別だとしても、目標は一つでございます。優良な医療を国民に届ける、そのためのことでございますので、ぜひ我々の活動を先生方にご紹介をさせていただいて共通認識を持っていただければと思っております。

何をやっているかということをちょっと先に示しました。これは、先生方の、本当に日本歯科医学会の先生方のお力添えで、特に医療技術評価提案等で診療報酬改定が成り立っているんだということを強く、私は、これは日本歯科医師会の会員にも認識をしていただかなければいけないと思いますし、そういう成果がここには出てきております。ご覧いただきますと、主な事業。

時間がございませんが、先に飛ばさせていただきますけれども、そして4コマ目、2ページに、直近の事業。特に先生方が大きく絡んでいらっしゃる日本歯科医学会との役員連絡協議会を開催する。

4コマ目。そして、全国の歯科大学、そして大学歯学部との意見交換会。これはもう全部の、ほとんどすべての大学の経営にかかわる方、そして執行体制にかかわる方に来ていただきまして、意見交換。大学の先生方のご意見を聞かねばかじが切れないということでございます。

そして、若手歯科医師臨床例発表会。これも全国の歯科大学の、もちろん先生方の、多分日本歯科医学会に加入されている若手の先生方、これは卒業して10年以内の先生方に研究発表会をさせていただきまして、非常に有効。私、ずっと一日、全く眠気も催すことなく、目をらんらんとして聞かせていただきました。すばらしい。私、これを聞いて、これは日本の歯科界は将来明るいのではないかなと思うようなすばらしい講演がございました。

そして、あとは日本歯科医師会と日本医師会との合同のシンポジウム。次のページでご

ざいます。これも初めての試みでございます。日医会館で行いました。これは小林隆太郎先生にも、そして沼部先生にもご来場いただいてご発表いただきました。昨日、一昨日、読売新聞の一面でこれが公表されまして、非常にいろいろなリアクションが来ております。

そして、若手歯科医師活躍推進意見交換会。これも4ページ目、8コマ目でございます。そして、これも多くの若手の歯科医師の先生方が、これから日本歯科医師会がどういうふうにすべきかというご意見をいただきました。どうしたら入っていただけるのか。これは先生方の日本歯科医学会にも、どうしたら医学会に入って活躍をしていただけるのか。これは同じ方向性を持つてのイベントでございました。

それから、女性。今、在校生の半分以上女性になっている大学は非常に多くございます。女性の、なかなかハンディーがある女性をどうやって会の中で活躍していただけるか。こういう会も催しました。

それから、これは先生方とあまり関係はないといったらそんなことはないんですけども、国民歯科問題議員連盟というのが、政権与党の自民党さんの中でナンバーワンの数が存在する、三百数十人が存在する会でございます。これで、麻生太郎名誉会長、田村憲久会長、比嘉奈津美事務局長、こういう先生方と一緒に、これは先生方にも大きく影響する日本の歯科の中にどうやって予算を引っ張ってくるか、そういう大きな種をつくっているわけでございます。

あとは、次の⑤、11コマ目。これは総理官邸にも行って、医療関係団体がみんなで要望してまいりました。予算をいただかなければ先生方の研究等もなかなか難しいわけでございます。

それから、社会保障制度調査会等、こういうこともやっております。

そして、14コマ目に、いわゆる今、我々の組織、非常に取組まなければいけない、14コマ目でございます入会数。いわゆる会員数を増やす。そして、それも先生方のお力添えをいただいて、臨床研修医が600名を超える新入会がございました。600名。一応2000人が大体出ていらっしゃるから、半分、1000人を目指して今も活動をしております。臨床研修医の先生に入ってください。もちろん会費は無料。そして、あらゆる日本歯科医師会の持っている情報を提供させていただく。eラーニングシステム等で提供させていただく。決してマイナスにはならないから入ってくれと。各大学を回らせていただいて、説得をして、六百数十名が入っていただいています。もうちょっと頑張って1000人を目指そうと思います。

そして、次の 16 コマ目。医師・歯科医師、薬剤師の数。

そして、次の 17 コマ目は医師・歯科医師・薬剤師の女性比率、そして各科別による女性の男女比率等の資料を用意してあります。

そして、大きな大きな問題でございます、歯科の医療費がなかなか伸びない。そして、医歯薬だった医療費の順番が、完全に医薬歯に変わってまいりました。もう、変わったどころか、倍以上。歯科の医療費が 3 兆 2925 億。それに対して調剤が 8 兆 3077 億。17.6%、総医療費のうちに調剤と薬剤を含めて行っております。歯科は 7%でございます。そういう状況で医療を担っているということを、これは会員向けにもアピールをしているわけでございます。

あと、もう時間がございません。あとちょっと説明をさせていただく。24 コマ目でございます。これは今日出席をさせていただいている末瀬学術担当の常務が F D I に行つて、事前にもう情報提供のご連絡をさせていただいて、諸外国との医療費の比較を出して。これはもう歯科医療管理学会で発表済みのデータでございますけれども、これだけ違うんだと。これは国民の皆様は知らない。ですから、これが非常に大きな大きな問題でございます。ここをしっかりとまずは、まず、これを例えばアメリカのように総義歯が、ご覧いただくとアメリカでは 28 万、日本は 3 万 5780 円。これは全部印象から含めての値段です。単体総義歯は 2 万 6600 円、2660 点の総義歯。アメリカに比べたら本当に桁が違う。これを一気にアメリカ並みにしようというのは、これは窓口負担の急速な拡大によって患者さんがいらっしやれなくなる、そういうおそれがありますので、なかなかそういうふうな急激な変化はできないまでも、まずこれを国民が知らない。国民に知ってもらう。それを、我々はこれだけ低い対価で医療を担っているんだということを知っていただく、これがまず第一歩やるべきこと。そして、当然立法府の先生方にもアピールをしております。こういう状況で歯科を担っているんですよということをアピールしているところでございます。

30 コマ目。歯科衛生士の問題。個人立、半分は衛生士がゼロ。これは東京都の井上先生にお願いをしてデータをお借りいたしました。非常にこれは確度の高いデータでございます。

31 コマ目。自由診療が多いという、これは東京の会員のデータです。自由診療、500 万未満が 55.4%。東京でも自由診療が半分以上が 500 万未満。年間ですよ。こういう状況。そして、給与。大体 1 人しかいませんから、歯科医師。大体令和 5 年 6 月の歯科医の給料、個人立 51 万 4000 円。こういう状況でやっているんだということをアピールしているわけ

でございます。こういうアピールをしつつ、先生方の、特に技術評価提案を含めて診療報酬改定の大きな種をつくっていただいている。これはもう歯科医学会の先生方でなければできないし、その先生方のおかげでここまで伸びてきつつある。

実は、今回の診療報酬改定で、これはまだ最終的な話ではありませんけれども、昨日の常務理事の発表。至近のデータで 8%を超える伸びをしているわけでございます。過去にないほど伸びています。これは本当に先生方のバックアップがなければ絶対にできない。これからもその辺をしっかりと連携をさせていただいて、我々も先生方のためになることをしっかりとやってまいりますので、ぜひ協調をして、いい医療のため、日本のいい医療を守るために頑張ってくださいますので、これからもお力添えのほどよろしく願いいたします。

そして、これはもう最後に、必ずいろいろなところで言っています。日本歯科医学会学術大会。川口先生が頑張ってくださいている。これを成功裏に導く。これは我々にとっても本当に大事な大事なミッションでございます。ですから、それこそ 3 万人、4 万人を集めないと、これは、我々日本歯科医師会は学術団体なんだぞという大きなアピールになるわけでございますので、この辺もしっかりと頑張ってくださいます。

これからもお力添えのほどよろしく願いいたします。ありがとうございました。(拍手)

○議長（築瀬武史君） 高橋会長、ありがとうございました。

なお、高橋会長は公務ご多忙のため、これをもちましてご退室なさいます。高橋会長、お忙しいところありがとうございました。

○報告

○議長（築瀬武史君） それでは、「日程 5. 報告」に入りたいと存じます。

初めに、(1)一般会務報告を天野総務理事よりお願いいたします。

○天野総務理事 それでは、先生方、お手元の資料、2 ページ目、報告の 1 の資料をご覧ください。本学会の関係する報告事項が記載されております。令和 7 年 2 月 15 日から 5 月 30 日までのものでございます。こちらはお手元の資料をお目通しいただければと思います。

以上です。

○議長（築瀬武史君） ありがとうございました。

続きまして、(2)各種委員会報告を天野総務理事よりお願いいたします。

○天野総務理事 資料の4ページ、資料2をご覧ください。こちらは各種委員会報告でございます。担当役員より順番にご報告させていただきますので、よろしくお願いいたします。

まず、学会誌編集委員会担当の横瀬理事、よろしくお願いいたします。

○横瀬理事 学会誌編集委員会からのご報告をさせていただきます横瀬です。よろしくお願いいたします。

本学会の和文機関誌である「日本歯科医学会誌」第44巻を、令和7年3月に発刊しました。令和6年度の特別企画は、「歯科イノベーションによるWell-being～7年後の歯科を展望する～」と題し、住友会長ほか7名による座談会を開催しました。その内容を掲載しております。また、学会が採択したプロジェクト研究等の報告書、分科会活動および学会からの各種情報等を掲載しております。

最後になりましたが、充実した会誌づくりのため、どうぞすべての分科会からの読者アンケート提出にどうかご協力していただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

以上です。

○天野総務理事 ありがとうございました。

続きまして、英文雑誌編集委員会担当の小峰常任理事、よろしくお願いいたします。

○小峰常任理事 それでは、ご報告いたします。

英文雑誌編集委員会は、こちらに記載の小見山委員長を始め、6名の委員で構成がなされております。2024年の12月には、Vol. 60 としまして電子版の冊子を発行しております。

なお、JDSR ですけども、Vol. 60 から日本歯科医師会との共同名義での発行となっております。また、2024年6月のデータでございますけれども、JDSRのIF値は5.7で、歯科分野で157誌中4位の状態でございます。日々、このようなJDSRの編集業務を粛々と進めております。

以上でございます。

○天野総務理事 ありがとうございました。

続きまして、歯科学術用語委員会担当の川口副会長、よろしくお願いいたします。

○川口副会長 この委員会では、WHOの国際疾病分類ICD-11の和訳作業を行っております。ほぼ厚生労働省での和訳作業のほうは完成しておりますが、今後、総務省での検討が必要で、統計法の中での疾病関連用語との整合性を図る必要があるため、実際に日本でこのICD-11が使われるのはまだもう少し先、2027年ごろになる予定です。

以上です。

○天野総務理事 ありがとうございます。

続きまして、学術研究委員会ご担当の末瀬常任理事、お願いいたします。

○末瀬常任理事 「歯科医学を中心とした総合的な研究を推進する集い」でございますが、臨学産協同を含めた学際分野との交流の場でございます。昨年度は令和6年11月27日に第40回の開催をさせていただきました、7題の講演発表とポスターディスカッションが行われました。講演の内容は、斬新性・広範性・進展性・現実性・共同研究性などの観点から発表内容を総合的に評価して、特に優秀な発表を行った4名の方に優秀発表賞を授与させていただきました。

また、プロジェクト研究事業は、重点計画「歯科医療への学術的根拠の提供」に基づき、歯科医学、医術の進歩発達を歯科医療現場に迅速に導入することを目的としまして、平成19年度に新設をされた公募型の競争的資金でございます。学術的かつ高度な研究結果を診療報酬改定時の新技術導入の一助となる研究課題や歯科医療を変える cutting-edge 研究を選考対象とするものでございます。令和6年度は、分科会より申請のあった研究課題から慎重審議の上、プロジェクト研究課題4題を選考いたしまして、その評価を行いました。併せて、令和5年度のプロジェクト研究の4題、これは事業2年目でございますが、4題についても評価を行いました。

なお、第40回の「歯科医学を中心とした総合的な研究を推進する集い」7題ならびに令和6年度のプロジェクト研究事業につきましては、記載のような形でございます。

以上でございます。

○天野総務理事 ありがとうございます。

続きまして、専門・認定分科会資格審査委員会ご担当の川口副会長、お願いいたします。

○川口副会長 本委員会では、専門分科会への加入や認定分科会への登録について資格審査を行っております。また、5年ごとに更新審査も行っております。

令和6年度は、専門分科会2つ、認定分科会17の資格更新審査を行いました。また、令和3年度のときに条件付きで承認されました1学会につきまして審査を行い、条件が満たされたということで審査を終了いたしました。

それから、令和7年度に関しましては、専門分科会への加入申請、また認定分科会への登録に関する資格審査、および更新審査は7年度は1学会を行う予定です。

以上です。

○天野総務理事 ありがとうございます。

続きまして、歯科医療協議会、ご担当の安井理事、お願いいたします。

○安井理事 本協議会は、学術的根拠に基づいて社会保険医療の在り方を提言し、適切な診療報酬について検討を行う、その目的で会議を開いております。昨年、令和6年度の診療報酬改定では、27項目が診療報酬改定において優先度が高い評価として、技術として評価されました。また、今年3月に専門・認定分科会を対象に令和8年度の診療報酬改定における医療技術評価提案書に係る説明会を実施し、現在28学会から、未収載技術34件、既収載技術44件の提出があったところでございます。

続いて、歯科における薬剤耐性（AMR）対策のワーキンググループをつくり、こちらは松野先生に委員長をお願いし、歯科における薬剤耐性の重要性に鑑み、日本歯科医師会や厚生労働省に向けて発信することを目的に検討を行い、6年の12月1日付でホームページに報告書を取りまとめております。

続いて、漢方薬使用に関するワーキンググループを設置し、こちらは王先生に委員長をお願いしておりますけれども、モデル・コア・カリキュラムが2016年に漢方について記載をされたこと、それから23年には国家試験の出題がなされたこともあり、歯科の立場での基本的な考え方を発信することを目的として現在報告書の取りまとめを行っているところでございます。

以上です。

○天野総務理事 ありがとうございます。

それでは、次は研究倫理審査委員会委員会の林先生、お願いいたします。

○林常任理事 本委員会は、日本歯科医師会および関連団体から申請される倫理審査を行っています。

令和6年度は画面にあります2件を審査させていただきまして、いずれも合格というふうに承認をいたしました。

以上です。

○天野総務理事 ありがとうございます。

続きまして、利益相反委員会ご担当の栗田理事、お願いいたします。

○栗田理事 本委員会では、利益相反指針の策定と管理を行っております。

令和6年度は資料に記載しました審査を1件行いました。

以上です。

○天野総務理事 ありがとうございます。

続きまして、重点研究委員会は、委員長の私をご報告いたします。

日本歯科医学会の最重要課題であります「2040年への歯科イノベーションロードマップ」を、さまざまな広報手段を駆使しまして、本学会から社会に効果的に発出する方法を引き続き検討しております。

また、2025年大阪・関西万国博覧会では、今月6月26日の出展に向けて準備を行っております。

以上でございます。

では、続きまして、歯科診療ガイドラインライブラリ協議会、ご担当の沼部常任理事、お願いいたします。

○沼部常任理事 沼部から報告いたします。

現在、本学会のホームページ上には「歯科診療ガイドラインライブラリ」がございまして、そこには34編の診療ガイドラインと60編の指針が掲載されています。昨年度は新たに4編の診療ガイドラインが収載されております。

そして、Mindsが目指す診療ガイドラインを理解して、実際の方法論を学ぶことを目的に、先日5月18日（日曜日）に日本コクランセンターの協力を得て、ガイドライン作成のためのワークショップをオンラインで開催いたしました。参加者は、専門分科会・認定分科会から24名ございました。講師等はそこに書かれているとおりですが、座長の平田創一郎先生、司会進行の湯浅先生には大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

以上です。

○天野総務理事 ありがとうございます。

続きまして、新歯科医療提供推進委員会委員の小林副会長、お願いいたします。

○小林副会長 本委員会でございますが、現執行部で3期目の臨時委員会となります。「1.5次歯科医療」という仮称から「地域支援型多機能歯科」として、これまでの漠然としたイメージの概念から、より具現化した内容の提案を行ってまいりました。そして、この3期にわたる委員会の活動におきまして、継続的な活動の結果、日本歯科医師会において「地域支援型多機能歯科の推進」がこの重要プロジェクトとして採択され、プロジェクトチームの設置に至りました。つまり、本委員会の初期目標は達成されたと言ってもいいと思っております。最終的には、令和7年、本年の3月に最終答申を行いました。これにより、3期行われましたこの臨時委員会のすべての答申書が現在日本歯科医学会のホームページの

ほうにも掲載しておりますので、ご覧になっていただければと思います。

以上でございます。

○天野総務理事 ありがとうございます。

それでは、続きまして、コンプライアンス調査・普及委員会、ご担当の小林先生、引き続きお願いいたします。

○小林副会長 本委員会は、現執行部で3期目の臨時委員会でございます。歯科医療にかかわる学生も含んでのすべての関係者と歯科医療機関に対しての明確なコンプライアンスの位置付けをするために設置をされました。

前期の答申書「コンプライアンスに関して歯科医療従事者が習得すべきカリキュラムの作成について」をもとに、今期委員会では関係者のコンプライアンスの認識の均一化・均等化を図るとともに、大学間のコンプライアンス教育のレベルを調整してカリキュラムの完成度を上げる目的に進めてまいりました。今後もこのカリキュラムの作成の検討を進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○天野総務理事 ありがとうございます。

続きまして、顕彰審議会担当の私よりご報告させていただきます。資料は12ページになります。

本学会最高の顕彰である日本歯科医学会会長賞につきまして、令和6年度は、専門分科会、認定分科会、歯科大学（歯学部）、日本歯科医師会へ候補者の推薦を依頼いたしました。その結果、14名の推薦がございました。この14名から、皆さんのお手元の資料にありますように、計7名、研究部門3名、教育部門3名、地域歯科医療部門1名の合計7名が選考されてまいりまして、本年2月18日の114回評議員会におきまして日本歯科医学会会長賞の受賞式が行われたところでございます。

以上が令和6年度の各種委員会の事業報告となります。

○議長（築瀬武史君） ありがとうございます。

続きまして、(3)第25回日本歯科医学会学術大会報告を川口副会長よりお願いいたします。

○川口副会長 資料13ページでございます。今年の9月26日から28日に現地開催で、パシフィコ横浜で行われます第25回日本歯科医学会学術大会。テーマ「歯科イノベーションによる新時代の創生」につきまして、現在参加登録が4月1日より始まっております。オ

ンライン登録で簡単にできますので、ぜひたくさんの方に参加していただきたいんですけども、ここに示してありますのは広報資料としてつくりましたサーキュラーでございます。

14 ページには、各特別企画の紹介をさせていただきました。

それで、3 の②に関しましては歯科衛生士セッションのご案内、それから3 の③に関しては歯科技工士セッションのご案内となります。

それと、3 の④、17 ページになりますが、これは現在まで、4月1日から登録を開始しまして約2カ月たちました6月2日現在で総登録者数は1,520名と、目標3万人のわずか5%でございます。ここに各歯科医師会の都道府県別、それから分科会の分科会別に何名一—複数回答ですので、分科会など幾つか皆さん入っていらっしゃると思いますが、それぞれの分科会の先生方、それから歯科医師会の先生方の実際の数でございます。ぜひぜひ多くの方にお声をかけていただいて参加を促していただければと思います。

なお、開会講演が決まりまして、将棋の羽生善治九段に開会講演のほうはお願いすることになっております。どうぞ各分科会、また都道府県歯科医師会での会員の参加登録にご協力いただきますようお願い申し上げます。よろしく申し上げます。

○議長（築瀬武史君） ありがとうございます。

続きまして、(4)令和6年度学会会計収支決算報告を松尾常任理事よりお願いいたします。

○松尾常任理事 それでは、令和6年度の学会会計収支決算書につきまして説明をいたします。

令和6年4月1日から令和7年3月31日までの収支でございます。

まず、18ページの資料番号4でございますが、まず、1、事業活動収入の合計は2億205万円余でございます。3月末現在、執行率は105.9%でございます。

続きまして、2の事業活動支出でございますが、(1)事業費支出は7,055万円余で執行率77.2%でございます。主な支出項目につきましては、会員顕彰費支出は210万円余の執行で執行率は92%、会誌関係支出は226万円余の執行で執行率は93.5%となっております。英文雑誌関係費支出は865万円余の執行で執行率は68.6%となっております。会議費支出は541万円余の執行で執行率は34%、事務費支出は285万円余の執行で41.2%の執行率でございます。

続きまして、(2)他会計への繰入金支出でございますが、これが5,149万円余でございます。

したがいまして、事業活動支出の合計は1億2,205万円余で執行率は110.2%となっております。

事業活動収入との差額であります8,000万円は、学術大会積立金として積み立てております。

なお、本決算は、6月12、13の両日に開催されます日本歯科医師会の第205回定時代議員会において審議、そして承認されると確定という運びになります。ご了承のほどお願いいたします。

以上、ご報告申し上げます。

○議長（築瀬武史君） ありがとうございます。

続きまして、(5)令和6年度第25回日本歯科医学会学術大会会計収支決算報告を松尾常任理事よりお願いいたします。

○松尾常任理事 それでは、19ページ、資料5にお進みください。令和6年度第25回日本歯科医学会学術大会会計収支計算書でございます。これは先ほどと同じく今年の4月1日から本年3月31日までの収支計算書でございます。

まず、事業活動収入の合計は1944万円余でございます。

続きまして、事業費支出の合計は977万円でございます。主な支出は日本コンベンションサービスへの大会準備委託費となっております。執行率は50.3%でございます。

なお、本決算は、先ほどの学会会計と同じく、6月の12、13両日に開催されます日本歯科医師会の第205回定時代議員会においてお諮りしまして、承認を得ましてから確定ということになりますので、ご了承いただきたいと思います。

以上、ご報告申し上げます。

○議長（築瀬武史君） ありがとうございます。

続きまして、(6)会長報告を住友会長にお願いしたいと存じます。

○住友会長 それでは、日本歯科医学会第28代の会長として、第115回臨時評議員会で報告をさせていただきます。

学会会長としては公式な報告はこれが最後ですので、内容は前回の評議員会以降だけでなく全体にわたります。

私の日本歯科医学会の目標は学会事業の継承ですが、その時代に合った事業体制で継承されればよいのでございます。基本的なところは示してきましたので、それに次の執行部の色合いをつけていただければ自然と引き継がれると思います。特に歯科イノベーション

については左下に書いてございますが、これまでは臨時委員会で対応していましたが、来期からは歯科イノベーション推進協議会として常置されます。常置ですので、ロードマップの目標からすれば2040年までは推進されることになります。

さて、私は、6期12年の間に皆様が必要としておられた団体の設立に立ち会うことができました。すなわち、日本医学会から独立した日本医学会連合の設立におくれること2年、2016年4月に一般社団法人日本歯科医学会連合が、そして2018年4月には一般社団法人日本歯科専門医機構が設立されました。私は、新規に設立した団体や組織は少なくとも2年ごとの検証に基づき次が展開されるので、10年間ぐらいの試行錯誤が必要だと考えます。とにかく、設立、そして運営には多くのエネルギーが必要でした。

会長職は、先ほどお話ししましたように2013年の巳年から始まり、「みずのとみ」というふうに干支では言われております。そして、12年後の2025年の巳年で終わります。「きのとみ」でございます。ある方から「12年間のご苦労は大変でしたね」と尋ねられました。私は「相当ヘビーでした」とお答えしました。念のためにもう一度、「相当ヘビーでした」とお答えいたしました。

以上で学会会長報告を終わります。(拍手)

○議長（築瀬武史君） ありがとうございます。

続きまして、(7)日本学術会議報告について、本日、日本学術会議歯学委員会委員長の村上伸也先生がご出席ですので、村上先生、お願いいたします。

○村上日本学術会議歯学委員会委員長 現在、日本学術会議の歯学委員会の委員長を拝命しております村上です。少々お時間をいただきまして、活動報告をさせていただきます。

令和7年度におきましては、これまでどおり歯学委員会は歯科の学協会と連携いたしまして、5月17日に「国民皆歯科健診の意義を考える」と題して公開のシンポジウムを実施させていただきました。また、今年の9月5日には歯科基礎医学会と連携をいたしまして、「マテリアルとライフの融合サイエンス」というテーマで公開シンポジウムを開催させていただく予定であります。現在エネルギーを投入していますのは、今期の報告の一つとして「歯学分野の研究力の推移および歯学領域が抱える課題」というテーマで、現在日本全体が抱えている学術の低迷に関して歯学領域でどういう状況が起こっているかを分析し、提言をしたいということで現在作業を進めております。また、学術会議に関しましては独立した法人格を持つべきか否かということで現在公開審議が進められておりますが、その審議が参議院のほうに移っているということはお存じかと思いますが、ご報告させていた

だきます。

以上です。

○議長（築瀬武史君） ありがとうございます。

続きまして、(8)大阪・関西万博について、天野総務理事よりお願いいたします。

○天野総務理事 大阪・関西万博担当の天野でございます。

まずは、資料の 20 ページ、資料 6 をご覧ください。こちらは、大阪・関西万博への本学会が参加するこの周知ポスターでございます。このポスターを、専門・認定分科会を始め関係各所にお送りしております。20 ページ、改めてご確認いただきたいと思います。

また、万博において使用する「歯科イノベーションロードマップ」の動画をつくっております。この動画は、歯科イノベーションが現時点でどこまで進んでいるか、これを皆さん方にお示しするものであります。この動画は、万博発表のみならず、今後の国内外への発信に使用するコンテンツであります。

では、今から通しで視聴いただきたいと思います。3 分少々でございます。

(動画視聴)

○天野総務理事 この動画のイノベーションの詳細につきましては、6 月 26 日、万博会場で具体発表されます。その録画を編集して、また発信用の資料として作成いたします。

先生方にもう一つ動画をご覧くださいと思いますが、こちらのタイトルは「歯科イノベーションロードマップムービー～20 年後の世界へ向けて。未来ちゃんと歩む～」というものでして、こちらは歯科イノベーションロードマップの全体像をお示ししております。これはもう既に数年前に完成しておりましたが、国際発信用に、その動画に英語のテロップを挿入しております。ご確認のため、冒頭のみご視聴いただきたいと思います。お願いいたします。

(動画視聴)

○天野総務理事 これは、2020 年に生まれた未来ちゃんが 20 歳になるまでの歯科イノベーションを示しております。こちらも日本歯科医学会のホームページでご覧になれるので、ぜひご覧いただきたいと思います。

さらに、日本歯科医学会のホームページに大阪・関西万博の参加について掲載しております。よろしいですか。こちら、ご覧いただけていますでしょうか。ご確認ください。

最後に、クインテッセンスの Web 掲載記事でも紹介されております。こちらがクインテッセンスの記事でございますね。ということで、順調に広報も進んでおりまして、26 日に

本番ということでございます。

以上です。ありがとうございました。

○議長（築瀬武史君） ありがとうございました。

続きまして、(9)その他ですが、執行部より報告事項はございますでしょうか。

○天野総務理事 ございません。

○議長（築瀬武史君） ありがとうございました。

それでは、ここで、これまでの報告に対するご質問をお受けいたします。

ご質問のある方は、「リアクション」の「挙手」ボタンを押すか、画面上で挙手をお願いいたします。「〇〇評議員、どうぞ」と指名がありましたら、マイクを「ON」にして、議席番号とお名前を述べてから発言してください。

ほかにご質問はないようですので、以上をもちまして「日程 5. 報告」は終了いたしました。

○議事

○議長（築瀬武史君） 続きまして、「日程 6. 議事」に入ります。

○第 1 号議案 日本歯科医学会役員（学会会長）選任に関する件

○議長（築瀬武史君） それでは、「第 1 号議案 日本歯科医学会役員（学会会長）選任に関する件」を議題といたします。

「第 1 号議案 日本歯科医学会役員（学会会長）選任に関する件」についての提案説明を天野総務理事をお願いいたします。

○天野総務理事 それでは、「第 1 号議案 日本歯科医学会役員（学会会長）選任に関する件」の提案理由の説明を申し上げます。

現役員任期は令和 7 年 6 月 30 日をもって満了いたしますので、日本歯科医学会規程第 6 条、ならびに同規程取扱い内規第 2 条の規定に基づき、次期学会会長の選出をお願いするものでございます。

なお、次期学会会長の任期は、令和 7 年 7 月 1 日より令和 9 年 6 月 30 日までとなります。

以上、提案理由の説明を終わります。

○議長（築瀬武史君） ありがとうございました。

それでは、学会会長の選任に関する件のご質問をお受けいたします。

ご質問のある方は、「リアクション」の「挙手」ボタンを押すか、画面上で挙手をお願い

いたします。「〇〇評議員、どうぞ」と指名がありましたら、マイクを「ON」にして、議席番号とお名前を述べてから発言してください。

ご質問はないようですので、このまま進めます。

学会会長の選挙は、日本歯科医学会規程第6条の規定、ならびに同規程取扱い内規第2条の規定に基づいて執り行いたいと存じます。

これより学会会長選挙を開始いたします。

ここで議場にお諮りいたします。日本歯科医学会選挙取扱い内規第20条の規定によれば、ここで議場を閉鎖し、選挙権を有する者の数を確定するため氏名点呼を行うところですが、今回はオンライン開催につき、議場の閉鎖および選挙権者数は「Zoom会議室」への入室をもって確認されたものとみなし、省略いたします。

次に、選挙取扱い内規第30条第3項の規定により、議事録署名人2名を指名いたします。慣例により、本評議員会の議事録署名人である9番、池邊哲郎評議員、67番、江里能成評議員、以上2名の評議員の先生方をお願いいたします。

これ以降の学会会長選挙に関する事務は、選挙取扱い内規第7条の規定に基づき、選挙管理会が管理いたします。では、選挙管理会の先生方、よろしくお願い申し上げます。

○毒島選挙管理会委員長 選挙管理会委員長の毒島です。

○小松選挙管理会副委員長 副委員長の小松でございます。

○毒島選挙管理会委員長 皆様のご協力、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、ただいまより日本歯科医学会選挙取扱い内規に基づき、日本歯科医学会役員選挙の選挙管理業務を執り行います。

そこで、選挙管理会から、選挙管理業務のこれまでの経緯についてご報告申し上げます。日本歯科医学会役員（学会会長）の選任に当たり、立候補の届出期間として、令和7年4月10日から4月16日（水曜日）までの土・日を除く午前9時半から午後5時半までの期間において受付業務を行いました。この間、小林隆太郎氏1名の届出があり、選挙管理会において日本歯科医学会選挙取扱い内規第4条に基づく資格審査を行った結果、適格者であることを確認しました。よって、候補者1名であり、定員を超えていません。この結果については、4月16日付で評議員会各位にお知らせをしたところです。

以上、簡単ではございますが、選挙管理業務のこれまでの経緯について経過報告を行いました。

○議長（築瀬武史君） ただいま選挙管理委員長よりご報告させていただいたとおり、候

補者が定員を超えておりません。選挙取扱い内規第 15 条には、「候補者が定員を超えないとき、または超えなくなったときは、評議員会の議決を経て、投票によらずに、その候補者を当選者と決定することができる。」との規定がございます。この規定に基づき、投票によらないで候補者を当選者と決定することとしたいと存じますが、ご異議ございませんか。ご異議がなければ賛成したものとみなさせていただきます。ご意見がありましたら、「リアクション」の「挙手」ボタンを押すか、画面上で挙手をお願いいたします。「〇〇評議員、どうぞ」と指名がありましたら、マイクを「ON」にして、議席番号とお名前を述べてからご発言ください。

ありがとうございました。ご異議ないようでございますので、小林隆太郎氏を当選者と決定いたしました。

なお、当選者のご挨拶は後ほど頂戴いたします。

以上で学会会長選挙の管理業務を終了いたします。

次に、学会副会長の選任についてお諮りいたします。日本歯科医学会規程第 6 条第 2 項では、「学会副会長は学会会長が指名する。ただし評議員会の承認を要する。」となっております。慣例によりまして、後日、学会会長が指名した学会副会長を、本日ご承認いただいたものとして取り扱ってよろしいでしょうか。ご意見のある先生は、「リアクション」の「挙手」ボタンを押すか、画面上で挙手をお願いします。指名がありましたら、マイクを「ON」にして、議席番号とお名前を述べてからご発言ください。

ありがとうございます。ご異議ないようでございますので、ご承認いただいたものと認めます。

引き続き、学会理事の選任についてお諮りいたします。理事の選任は、日本歯科医学会規程第 6 条第 3 項により、「学会会長及び学会副会長を除く学会理事は、次の各号に規定する者をもって充てる。ただし評議員会の承認を要する。」ことになっております。慣例によりまして、後日、専門分科会および学会会長ならびに日本歯科医師会会長が指名した理事を、本日ご承認いただいたものとして取り扱ってよろしいでしょうか。ご意見のある方は、「リアクション」の「挙手」ボタンを押すか、画面上で挙手をお願いいたします。指名がありましたら、マイクを「ON」にして、議席番号とお名前を述べてからご発言ください。

ありがとうございました。ご異議ないようでございますので、ご承認いただいたものと認めます。

これにて「第1号議案 日本歯科医学会役員（学会会長）選任に関する件」は終了いたしました。

それでは、当選されました次期学会会長、小林隆太郎先生に、毒島委員長より当選証書をお渡しいたします。小林先生、毒島委員長、前にお出ましお願いいたします。

（当選証書授与）

○議長（築瀬武史君） 引き続き、次期学会会長の小林隆太郎先生よりご挨拶をお願いいたします。

○小林次期学会会長 ただいま、次期日本歯科医学会の会長にご指名をいただきました小林隆太郎でございます。

先ほど住友会長のご挨拶にありましたように、12年間、住友会長が会長になられたときに、私も委員会等で初めてこの会館に足を入れた、当時の緊張したことを思い出しました。住友先生、「かなりヘビーな」というさっきのお話で、私もホッとしたというか、最後に住友先生のまた冗談が聞けてうれしく思いましたが、横で見えてきて本当に大変な12年間です。住友先生を始め各先輩方がこの12年間でしっかりとしたレールを引いてくださいました。その上に、これまでの各執行部、そして評議員の先生方、それから理事会の先生方、各学会の先生方と、そのレールの上に電車を動かしてきた。今後脱線することは本当にならないように、しっかりと先生方のご指導、それからご協力をいただきまして、しっかりと務めていきたいと思っております。

そして、この場をおかりしまして、今回、日本歯科医学会のこの選挙に関しまして無選挙という形を取っていただきました。これは本当に立候補を考えられた先生方から直接私にご連絡をいただきまして、私が最後まで立候補をするという意味はありませんでしたので、各学会、そして各大学の関係者の先生方から「今後も頑張りなさい」というかなりのご支援、ご声援をいただきまして立候補に至りました。そのときに、最後になりますが、他の立候補を検討していた先生方から直接ご連絡をいただき、「小林君がやるんだったら応援をするから」と言われて、私は今日ここに立つことができました。感謝を申し上げて、その分もしっかり頑張りますので、今後ともご支援をよろしくお願いしたいと思います。

今後につきましては、やはり日本歯科医学会の大切な立ち位置というのは「連携」という言葉だと思っております。各分科会の先生方との連携、そして日本歯科医師会との連携、そして厚生労働省その他関係団体・組織との連携、ここをしっかりとしていきたいと思っております。これまでも私、精励・誠実・謙虚の気持ちを大切にやってきましたので、それ

を忘れることなく進めていきますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。（拍手）

○議長（築瀬武史君） 小林先生、ありがとうございました。

また、毒島委員長、小松副委員長、ありがとうございました。

○毒島選挙管理会委員長 皆様のご協力によりまして、学会役員選挙の管理業務を無事遂行することができました。まことにありがとうございます。

○議長（築瀬武史君） ありがとうございます。

これをもちましてすべての議事は終了いたしました。

○協議

○議長（築瀬武史君） 引き続き、「日程7. 協議」に入ります。

(1) 学会会務運営について。今回、日本歯科医学会会務運営に対する質問および要望等について事前に各評議員からの質問をお受けしたところ、提出された質問はございませんでした。

その他ご質問がございましたら、お受けいたします。ご質問のある方は、「リアクション」の「挙手」ボタンを押すか、画面上で挙手をお願い申し上げます。指名がありましたら、マイクを「ON」にして、議席番号とお名前を述べてからご発言ください。

ありがとうございます。

その他、執行部からのご提案、ご意見等はございますでしょうか。

○天野総務理事 ございません。

○議長（築瀬武史君） では、ないようですので、これをもって協議を終了いたします。

以上をもちまして、第115回臨時評議員会の全日程はすべて終了いたしました。

会議の議事運営に皆様のご協力とご理解を賜り、円滑なる議事の進行が賜れましたことを深く感謝申し上げます。

○閉会の辞

○議長（築瀬武史君） それでは、閉会の辞を小林副会長、お願い申し上げます。

○小林副会長 本日はお忙しい中、評議員の先生方におかれましては、長時間にわたり、この住友執行部最後の評議員会になりますが、ご出席いただきましてありがとうございました。

次期会長ということで、私の今日、議題もございましたが、すべての報告、議案につきましてもすべて円滑に進めていただくことができました。改めまして感謝申し上げます。

本当にこれをおもちまして 12 年間にわたる住友会長がこれまで私たちにご指導いただいたこと、最後の日になりますが、一つずつしっかり受けとめまして、今後も歯科医学会の運営に関しましてしっかり進めてまいりたいと思いますので、また改めまして 7 月以降、新執行部での事業が進められますので、ご支援いただきたいと思います。

それでは、これをおもちまして第 115 回臨時評議員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

午後 3 時 10 分閉会

第 115 回臨時評議員会

議 長 築 瀬 武 史 ⑩

副 議 長 大 島 勇 人 ⑩

議事録署名人 池 邊 哲 郎 ⑩

同 江 里 能 成 ⑩